

2019年度 突哨山人工林間伐報告

NPO 法人もりねっと北海道



人工林番号 58・58北 林班 112-102 発生年 1974年
面積 0.18ha 標準地 10m×10m 林齢 45年

樹種	胸高直径(cm)	備考	樹種	胸高直径(cm)	備考
ヨーロッパトウヒ	23		シラカンバ	19	
ヨーロッパトウヒ	15		ヨーロッパトウヒ	16	
ヨーロッパトウヒ	26		ヨーロッパトウヒ	27	
ヨーロッパトウヒ	14	枯損	ヨーロッパトウヒ	15	
ヨーロッパトウヒ	18		ヨーロッパトウヒ	25	
ヨーロッパトウヒ	30		ヨーロッパトウヒ	28	
ヨーロッパトウヒ	23	枯損	ヨーロッパトウヒ	22	
イヌエンジュ	16		ヨーロッパトウヒ	19	
ヨーロッパトウヒ	20	枯損	ヨーロッパトウヒ	21	

面積0.18haのごく小さい人工林エリア。樹種はヨーロッパトウヒ。
長期未手入れで成長不良木が多い。胸高直径14～30センチ。
今回は優良木を残す30%程度の定性間伐を行った。今後、成長の経過を観察しながら混交林化を目指す。

間伐前



間伐後



人工林番号 51 林班 112-28 発生年 1972年

面積 2.4ha 標準地 10m×10m 林齢 47年

樹種	胸高直径(cm)	備考	樹種	胸高直径(cm)	備考
トドマツ	10		トドマツ	18	
トドマツ	13		トドマツ	10	
トドマツ	17		ハチカエデ	1	
トドマツ	20		トドマツ	15	
シナ	7		ハチカエデ	2	
ハウノキ	3		ハチカエデ	1	
ハチカエデ	2		トドマツ	15	
トドマツ	12		シラカンバ	22	
シラカンバ	18		シラカンバ	20	
シナ	2		トドマツ	12	
サクラ	10		アズキ	2	
シラカンバ	20		アズキ	4	
シラカンバ	23				

長期未手入れのトドマツ人工林。植林したトドマツの成長が悪く、シラカンバを中心に広葉樹が多く混在している。このエリアでの対象面積は0.6ha。
優良な広葉樹を残すように、その周囲のトドマツを中心に間伐を行った。

間伐前



間伐後



人工林番号 51 林班 112-48 発生年 1984年
面積 2.4ha 標準地 10m×10m 林齢 35年

樹種	胸高直径(cm)	備考	樹種	胸高直径(cm)	備考
トドマツ	28		ヨーロッパトウヒ	10	
ヨーロッパトウヒ	16		ヨーロッパトウヒ	6	枯損
ヨーロッパトウヒ	22		ハルニレ	3	
ヨーロッパトウヒ	14		ヨーロッパトウヒ	16	
カラマツ	28		イタヤカエデ	4	
ナナカマド	8		カラマツ	24	
カラマツ	30		カラマツ	30	
ヨーロッパトウヒ	6	枯損			
ヨーロッパトウヒ	18				
ヨーロッパトウヒ	14				
カラマツ	34				
シラカンバ	20				
シラカンバ	23				

ガイドマップ「D」付近の遊歩道沿い。

樹高20m以上のカラマツの下にトウヒが混在している。

林床に光を当てることを目的とし、トウヒを中心に30%程度の間伐を行った。

遊歩道沿いのため倒した木は奥に引き込んだ。

間伐前



間伐後



人工林番号
面積

扇の沢分岐
0.02ha

林班
標準地

112-43
5.6m 円形

発生年
林齢

(1946年)
(73年)

樹種	胸高直径(cm)	備考	樹種	胸高直径(cm)	備考
シラカンバ	11	枯損			
シラカンバ	26				
ヨーロッパトウヒ	20				
ヨーロッパトウヒ	15				
ヨーロッパトウヒ	33				
トドマツ	28				
トドマツ	8				
トドマツ	20				
トドマツ	11				
ミズナラ	12				
イタヤカエデ	15				
トドマツ	14				

扇の沢分岐地点南側のごく狭い人工林エリア。森林データではこの場所は広葉樹林となっているため詳しい来歴は不明。

現状はトドマツとトウヒを中心とした人工林。密生しているわけではない。シラカンバやミズナラ、イタヤカエデが数本入り込んでいる。

このエリアはカタクリの群生地なので林床に光が多く当たることを目的に数本の間伐を行った。倒した木はその場に積み上げた。

間伐前



間伐後



人工林番号 28、29、32

林班

112-56、57

発生年

1960、36年

面積

0.5 ha

標準地

5.6 m 円形

林齢

59、83年

樹種	胸高直径(cm)	備考	樹種	胸高直径(cm)	備考
----	----------	----	----	----------	----

カラマツ	3 2		イタヤカエデ	4	
カラマツ	3 9		イタヤカエデ	4	
アズキナシ	1		イタヤカエデ	3	
ヨーロッパトウヒ	2 1		イタヤカエデ	3	
ヨーロッパトウヒ	2 1		イタヤカエデ	6	
アズキナシ	4		イタヤカエデ	3	
アズキナシ	1		カラマツ	3 0	
イタヤカエデ	7		イタヤカエデ	7	
イタヤカエデ	4		イタヤカエデ	6	
カラマツ	3 7		カラマツ	3 5	
イタヤカエデ	7		カラマツ	7	枯損
カラマツ	1 2		カラマツ	3 7	
アズキナシ	4		エゾヤマザクラ	7	枯損
アズキナシ	2		アズキナシ	3	
アズキナシ	2		イタヤカエデ	7	

頂上西側に位置する。森林データによると56林班は59年生のヨーロッパトウヒ、57林班は83年生のカラマツとなっている。現状は大きなカラマツの中にややトウヒが混ざり、競争に負け枯れた針葉樹の間にアズキナシやイタヤカエデなどの広葉樹が多く入り込んでいる。自然淘汰による混交林への移行過程にある。場所によって疎密の差があり、密生している場所を中心に30%程度の定性間伐を行った。

間伐前



間伐後

